

# 次期計画骨子案及び基本施策の内容について

(仮称) 第4期未来をつくる堺教育プラン ～未来を切り拓く力の育成～

プラン推進の基本的視点

- (1) ウェルビーイング
- (2) 教育DXの推進
- (3) 新たな学校のあり方\*

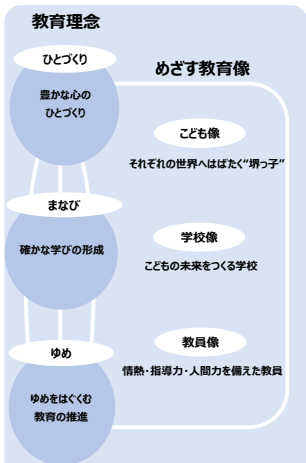
\*中学校区にある小学校と中学校を1つのチームと見なし、9年間を促進しつなげる教育の実現

■基本施策

※赤字：【新規】新たに追加することを検討する内容

青字：【更新】第3期プランからの状況の変化等を踏まえ記載内容の更新を検討する内容

黒字：【継続】



**基本的方向性1**

子どもが身につける力

子どもが心身を成長させ、自ら学び、考え、判断し、行動できる力を育む教育を進めます

**1 確かな学力**

自ら学び、考え、判断し、行動できる力に加え、グローバルに活躍できる力、情報活用能力、その他新しい時代に必要となる資質・能力。  
【ゴール】自ら学びを進めることができる力のある子ども

**2 豊かな心**

自分のよさや可能性を知り、多様な価値観を認め、相手の立場を思いやり大切に、自分たちの未来へ希望が持てる豊かな心。  
【ゴール】社会に明るく進んでいける子ども、未来を明るく願える子ども

**3 健やかな体**

自分の健康に関心を持ち、正しい知識をもとに、目標に向かって自己改善と良い習慣を継続することができ、生涯にわたり主体的に心身の健やかさを育むことができる  
【ゴール】心身の健康を自ら育み守れる子ども

**■主な取組**

- 学校のプロセスに基づいた授業改善
- グローバル化に対応した人材の育成（英語教育、子ども堺学、国際理解教育、情報活用能力の育成）
- 教科等横断的なカリキュラムの充実（連関性のある教育活動の組み立て、小中一貫等の組織的なプログラムの実施）
- 読解力の向上に向けた取組
- 学校図書館の効果的な活用（小・中・支援学校への学校司書配置、市立図書館との連携）
- 各種学力調査の活用の推進
- 家庭学習習慣の形成
- ゆめを実現する高等教育の推進
- 幼～高 縦横につながる連携・接続への取組
- 幼小小連携、架け橋期のプログラム
- 情報活用能力の育成
- デジタル教材、教材、学習支援ソフトの活用に向けた取組の推進

■豊かな情操を育む取組の充実（道徳教育、堺・スタンダード）

■人権教育の推進（人権教育、性暴力被害の防止、いじめの未然防止、安全教育、情報モラル教育）

■キャリア教育の充実に向けた取組

■読書活動の推進

■体験活動の充実（文化芸術・自然・スポーツ・社会）

■地域や企業と取組体験・交流活動の推進

■体力向上（大学と連携した体力向上モデル実施）

■食育の推進

■基本的な生活習慣（保健指導の推進、睡眠教育、スマホ使用時間）

■学校給食の提供を通じた健康な体の育成・体力の向上

■運動に親しむことへの増加に向けた取組

■保健指導の推進

**基本的方向性2**

子どもの学びを支える教師・学校の姿

誰一人取り残さず、子どもの学びを支えます

**4 学校マネジメント力**

R-PCDAサイクルを活用した教育課程の継続的な改善を基盤に、教職員の資質・能力の向上、働きやすさ（働きがい）のある職場環境の整備、業務の効率化・適正化を推進する。また、未来をつくる堺の誇り（PRIDE）により不祥事ゼロをめざす。  
【ゴール】すべての教職員と児童生徒が安心して学び、働き、成長できる学校の実現

**5 誰一人取り残さない教育**

社会とつながりながら成長する子どもたちを育むために、子どもの多様な個性や状況や思いにに対応することができる教職員の専門性や指導力の向上と、それらを可能にする教育環境の充実や関係機関との連携・協働により、子どもの学びの機会を保障し、多様な学びの場と学習方法を提供する。  
【ゴール】社会とつながりながら成長する子どもたちを育むために、学び続ける教職員、つながらうとする教職員、それらを支える環境や連携がある学校の実現

**6 子どもの安全・安心**

学校がそれぞれの子どもにとって身体的、精神的に安心できる場となり、それを土台に学校が多様な主体と連携しながら子どもの安全・安心を支える取組を進める。  
【ゴール】安全・安心な居場所という基礎・土台の確保と、多様な主体との連携によって子どもの安全・安心を守る学校の実現

**■主な取組**

- 働きやすさ（働きがい）のある学校の実現
- 教員業務支援員等の効果的な配置
- 小・中・小中間の連携による校務の効率化
- 時間的・精神的に余裕がもたれる校内体制、マネジメント
- 不祥事の未然防止対策の徹底（未来をつくる堺の誇り）
- R-PCDAサイクルによる学校経営の推進・教育課程の充実
- 教員研修の充実
- 優秀な教職員の確保と教員養成期を含めた人材の育成に向けた大学等との連携
- 子どもの意見が反映される学校マネジメントの推進

■不登校等の子どもへのサポート（ICTの効果的な活用）

■特別支援教育の充実（通級指導教室の全校設置、支援学校分校の設置含む）

■日本語指導（日本語指導が必要な子どもへのサポート）の充実

■中学校後期学級による教育の充実

■校内教育支援教室・校内教育相談体制の充実

■安全・安心なおいしい学校給食の提供（給食センター、学校での衛生管理）

■急下校における交通安全や防犯対策

■いじめの未然防止、いじめ対応の徹底

■学校安全の推進

■児童虐待への迅速かつ適切な対応

■性暴力被害の防止（教職員研修）

**基本的方向性3**

子ども・学校を支える教育環境の整備

子どもを中心に取り巻くすべての人が連携・協働し、豊かな学びを支える教育環境を充実させます

**7 教育環境の充実**

学校規模の適正化や、体育館空調・トイレ等の学校施設の計画的な整備、点検・保守・改修等を行い、すべての子どもや市民にとって安全・安心で過ごしやすい、学習や活動の取り組みやすい教育環境の充実をめざす  
【ゴール】すべての子ども、教職員が適切かつ効果的に学習を行うことができる環境の充実

**8 子どもを取り巻く社会的課題への対応**

社会で起きている様々な課題の中でも、特に子どもを取り巻く社会的課題へ対応するため、他機関等との連携・協働により、支援体制を整備する  
【ゴール】子どもを取り巻く複雑かつ多岐にわたる社会的な課題に対応するための体制の整備

**9 社会で支える子どもの育ち**

学校・家庭・地域がつながり、多様な機関や団体と効果的に連携・協働を行うことで、学校教育だけでなく生涯教育の観点も含めて社会全体で子どもを育む取組を充実させる  
【ゴール】相互支援・相互理解ができる地域とのつながりの実現

**■主な取組**

- 学校規模及び学校配置の適正化
- 学校施設・設備の計画的な整備（体育館空調整備、トイレ整備、点検・保守の確実な実施、機能的な改修）
- 学校のICT環境の維持・最適化

■教育の機会均等に向けた経済的負担軽減の取組を推進（就学援助、堺未来応援奨学金など）

■不登校の子どもへのサポート（教育支援教室、不登校支援ネットワーク）

■学校外の相談体制の充実（教育相談、区役所の教育相談、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールロイヤー、いじめ不登校対策支援室、支援教育課、いじめネット相談窓口等）

■地域住民や多様な機関・団体等との連携・協働（市役所内の部局間連携、市役所外の多様な主体との連携、学校や教育活動に関する情報の公開と発信による信頼の構築）

■堺版コミュニティ・スクールの推進

■地域学校協働活動（地域コーディネーターの育成を含む）

■市民の学習支援（図書館サービスの充実、読書活動の推進、学校施設の開放、教育CSR推進事業、科学に関する市民の学習支援）

■中央図書館の再整備

■家庭教育支援

■社会教育関係団体（PTAやこども会など）の活動への支援

■部活動の地域連携・地域展開

■放課後児童対策等事業の推進

■地域産業・社会に貢献する高等学校教育の推進

## こどもが身につける力

こどもが心身を成長させ、自ら学び、考え、判断し、行動できる力を育む教育を進めます

プラン推進の  
基本的  
視点

ウェルビー  
イング

教育DX  
の推進

新たな学  
校のあり方

基本施策	主な取組
<p><b>1 確かな学力</b> 自ら学び、考え、判断し、行動できる力に加え、グローバルに活躍できる力、情報活用能力、その他新しい時代に必要となる資質・能力を育てる。 【ゴール】自ら学びを進めることができる力のあるこども</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「学びのコンパス」に基づいた授業改善</li> <li>■グローバル化に対応した人材の育成（英語教育、子ども堺学、国際理解教育、情報活用能力の育成）</li> <li>■教科等横断的なカリキュラムの充実</li> <li>■読解力の向上に向けた取組</li> <li>■学校図書館の効果的な活用（小・中・支援学校への学校司書配置、市立図書館との連携）</li> <li>■各種学力調査の活用の推進</li> <li>■探究的な学びの充実に向けた取組</li> <li>■家庭学習習慣の形成</li> <li>■ゆめを実現する高等学校教育の推進</li> <li>■幼～高 縦横につながる連携・接続への取組</li> <li>■幼保小連携、架け橋期のプログラム</li> <li>■情報活用能力の育成</li> <li>■デジタル教科書、教材、学習支援ソフトの活用に向けた取組の推進</li> </ul>
<p><b>2 豊かな心</b> 自分のよさや可能性を知り、多様な価値観を認め、相手の立場を思いやり大切にし、自分たちの未来へ希望が持てる豊かな心を育てる。 【ゴール】社会に明るく進んでいけるこども、未来を明るく語るこども</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■豊かな情操を育む取組の充実（道徳教育、堺・スタンダード）</li> <li>■人権教育の推進（人権教育、性暴力被害の防止、いじめの未然防止、安全教育、情報モラル教育）</li> <li>■キャリア教育の充実に向けた取組</li> <li>■読書活動の推進</li> <li>■体験活動の充実（文化芸術・自然・スポーツ・社会）</li> <li>■地域や企業と取組体験・交流活動の推進</li> </ul>
<p><b>3 健やかな体</b> 自分の健康に関心を持ち、正しい知識をもとに、目標に向かって自己改善と良い習慣を継続することができ、生涯にわたり主体的に心身の健やかさを育てる。 【ゴール】心身の健康を自ら育み守れるこども</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■体力向上（大学と連携した体力向上モデル実施）</li> <li>■食育の推進</li> <li>■基本的な生活習慣（保健指導の推進、睡眠教育、スマホ使用時間）</li> <li>■学校給食の提供を通じた健康な体の育成・体力の向上</li> <li>■運動に親しむこどもの増加に向けた取組</li> <li>■保健指導の推進</li> </ul>

※赤字：【新規】新たに追加することを検討する内容

青字：【更新】第3期プランからの状況の変化等を踏まえ記載内容の更新を検討する内容案

黒字：【継続】

## こどもの学びを支える教師・学校の姿

誰一人取り残さず、こどもの学びを支えます

プラン推進の  
基本的  
視点

ウェルビー  
イング

教育DX  
の推進

新たな学  
校のあり方

基本施策	主な取組
<p><b>4 学校マネジメントカ</b> R-PDCAサイクルを活用した教育課程の継続的な改善を基盤に、教職員の資質・能力の向上、働きやすく働きがいのある職場環境の整備、業務の効率化・適正化を推進する。また、未来をつくる堺の誇り（PRIDE）により不祥事ゼロをめざす。 【ゴール】すべての教職員と児童生徒が安心して学び、働き、成長できる学校の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 働きやすく「働きがい」のある学校の実現</li> <li>■ 教員業務支援員等の効果的な配置</li> <li>■ 小小、小中間の連携による校務の効率化</li> <li>■ 時間的・精神的に余裕がうまれる校内体制、マネジメント</li> <li>■ 不祥事の未然防止対策の徹底（未来をつくる堺の誇り）</li> <li>■ R-PDCAサイクルによる学校経営の推進・教育課程の充実</li> <li>■ 教員研修の充実</li> <li>■ 優秀な教員の確保と教員養成期を含めた人材の育成に向けた大学等との連携</li> <li>■ こどもの意見が反映される学校マネジメントの推進</li> </ul>
<p><b>5 誰一人取り残さない教育</b> 社会とつながりながら成長することもたちを育むために、こどもの多様な個々の状況や思いなどに対応することができる教員の専門性や指導力の向上と、それらを可能にする教育環境の充実や関係機関との連携・協働により、こどもの学びの機会を保障し、多様な学びの場と学習方法を提供する。 【ゴール】社会とつながりながら成長することもたちを育むために、学び続ける教員、つながろうとする教職員、それらを支援する環境や連携がある学校の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 不登校等のこどもへのサポート（ICTの効果的な活用）</li> <li>■ 特別支援教育の充実（通級指導教室の全校設置、支援学校分校の設置を含む）</li> <li>■ 日本語指導（日本語指導が必要なこどもへのサポート）の充実</li> <li>■ 中学校夜間学級による教育の充実</li> </ul>
<p><b>6 こどもの安全・安心</b> 学校がそれぞれのこどもにとって身体的、精神的に安心できる場となり、それを土台に学校が多様な主体と連携しながらこどもの安全・安心を支える取組を進める。 【ゴール】安全・安心な居場所という基礎・土台の確保と、多様な主体との連携によってこどもの安全・安心を守る学校の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 校内教育支援教室・校内教育相談体制の充実</li> <li>■ 安全・安心でおいしい学校給食の提供（給食センター、学校での衛生管理）</li> <li>■ 登下校における交通安全や防犯対策</li> <li>■ いじめの未然防止、いじめ対応の徹底</li> <li>■ 学校安全の推進</li> <li>■ 児童虐待への迅速かつ適切な対応</li> <li>■ 性暴力被害の防止（教職員研修）</li> </ul>

※赤字：【新規】新たに追加することを検討する内容

青字：【更新】第3期プランからの状況の変化等を踏まえ記載内容の更新を検討する内容案

黒字：【継続】

## こども・学校を支える教育環境の整備

こども中心に取り巻くすべての人が連携・協働し、豊かな学びを支える教育環境を充実させます

プラン推進の  
基本的  
視点

ウェルビー  
イング

教育DX  
の推進

新たな学  
校のあり方

基本施策	主な取組
<p><b>7 教育環境の充実</b> 学校規模の適正化や、体育館空調・トイレ等の学校施設の計画的な整備、点検・保守・改修等を行い、すべてのこどもや市民にとって安全・安心で過ごしやすい、学習や活動の取り組みやすい教育環境の充実をめざす。 【ゴール】すべてのこども、教員が適切かつ効果的に学習を行うことができる環境の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学校規模及び学校配置の適正化</li> <li>■ 学校施設・設備の計画的な整備 (体育館空調整備、トイレ整備、点検・保守の確実な実施、機能的な改修)</li> <li>■ 学校のICT環境の維持・最適化</li> </ul>
<p><b>8 こどもを取り巻く社会的課題への対応</b> 社会で起きている様々な課題の中でも、特にこどもを取り巻く社会的課題へ対応するため、他機関等との連携・協働により、支援体制を整備する。 【ゴール】こどもを取り巻く複雑かつ多岐にわたる社会的な課題に対応するための体制の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 教育の機会均等に向けた経済的負担軽減の取組を推進 (就学援助、堺未来応援奨学金など)</li> <li>■ 不登校のこどもへのサポート (教育支援教室、不登校支援ネットワーク)</li> <li>■ 学校外の相談体制の充実 (教育相談、区役所の教育相談、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールロイヤー、いじめ不登校対策支援室、支援教育課、いじめネット相談窓口等)</li> </ul>
<p><b>9 社会で支えるこどもの育ち</b> 学校・家庭・地域がつながり、多様な機関や団体と効果的に連携・協働を行うことで、学校教育だけでなく生涯教育の観点も含めて社会全体でこどもを育む取組を充実させる。 【ゴール】相互支援・相互理解ができる地域とのつながりの醸成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域住民や多様な機関・団体等との連携・協働 (市役所内の部局間連携、市役所外の多様な主体との連携、学校や教育活動に関する情報の公開と発信による信頼の構築)</li> <li>■ 堺版コミュニティ・スクールの推進</li> <li>■ 地域学校協働活動 (地域コーディネーターの育成を含む)</li> <li>■ 市民の学習支援 (図書館サービスの充実、読書活動の推進、学校施設の開放、教育CSR推進事業、科学に関する市民の学習支援)</li> <li>■ 中央図書館の再整備</li> <li>■ 家庭教育支援</li> <li>■ 社会教育関係団体 (PTAやこども会など) の諸活動への支援</li> <li>■ 部活動の地域連携・地域展開</li> <li>■ 放課後児童対策等事業の推進</li> <li>■ 地域産業・社会に貢献する高等学校教育の推進</li> </ul>

※赤字：【新規】新たに追加することを検討する内容

青字：【更新】第3期プランからの状況の変化等を踏まえ記載内容の更新を検討する内容案

黒字：【継続】

**【新規】新たに追加することを検討する内容**

基本施策	主な取組	理由
1 確かな学力	「学びのコンパス」に基づいた授業改善	「ICT の活用」「個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実」「探究的な学び」の視点から、こどもが自ら学びを進めるための授業の考え方を示した「学びのコンパス」に基づいた授業改善を推進する必要がある。
	読解力の向上に向けた取組	学力調査における無解答率が全国平均より高いことなどから、文章を正確に読む力に課題があると推察されるため、読解力の向上に向けた取組を推進する必要がある。
	各種学力調査の活用の推進	各種学力調査結果に基づく教育データの利活用を充実させることで、各学校園における PDCA サイクルを確立し、こどもの実態に応じた効果的な取組を実施する必要がある。
2 豊かな心	体験活動の充実（文化芸術・自然・スポーツ・社会）	こどもたちが、生命や自然の大切さ、主体的に挑戦することや多様な他者と協働することの重要性等を実感しながら理解できるよう、体験活動の充実を図る必要がある。
	地域や企業と連携した体験・交流活動の推進	全国的にこどもの体験活動の場や機会が減少傾向にある中、こどもたちが地域社会や企業の現場に触れることで社会の仕組みや働く意義等を実感できるなど豊かな体験機会を提供するため、地域や企業と連携した様々な体験・交流活動を推進する必要がある。
4 学校マネジメント力	こどもの意見が反映される学校マネジメントの推進	学校の取組や校則の見直しにおいて、こどもの意見を反映した学校マネジメントを推進する必要がある。
9 社会で支えるこどもの育ち	中央図書館の再整備	中央図書館の再整備に向けて、図書館機能や図書館が提供するサービスの今後の方向性、新たな図書館の求める機能やコンセプト、そのコンセプトを具現化するための取組について

		検討を進める必要がある。
	部活動の地域連携・地域展開	少子化や教員の働き方改革が進む中であっても、こどもがスポーツや文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保し続けるため、学校部活動の地域との連携や地域クラブ活動への展開に向けた検討を進める必要がある。

**【更新】第3期プランからの状況の変化等を踏まえ記載内容の更新を検討する内容案**

基本施策	取組	理由
1 確かな学力	教科等横断的なカリキュラムの充実（関連性のある教育活動の組み立て、小中一貫等の組織的なカリキュラムの実施）	総合的な学習の時間を軸として教科等横断的な学習を充実させる必要がある。
	探究的な学びの充実に向けた取組	こどもが自ら問いを立て、情報を収集・分析し、課題を解決する過程を通じて、主体性・協働性・創造性を育む学習活動を充実させる必要がある。
	家庭学習習慣の形成	ICT も有効に活用しながら、学習意欲を高め授業内容の定着や探究活動の促進を図るなど、授業と連動した家庭学習を支援する必要がある。
	ゆめを実現する高等学校教育の推進	堺高校の強みを生かし、魅力的な取組を実施することで、生徒それぞれの可能性を最大限に引き出し、将来社会で活躍できる力を育む必要がある。
	幼～高 縦横につながる連携・接続への取組	幼稚園から小学校、中学校、高等学校へと、段差のない縦のつながり、学校群での連携等を生かした横のつながりを生かした取組を推進する必要がある。
	幼保小連携、架け橋期のプログラム	幼稚園、保育園等から小学校への円滑な接続に向けた取組が重要であり、「架け橋期のカリキュラム」を作成し、各校区での取組を推進する必要がある。

	デジタル教科書、教材、学習支援ソフトの活用に向けた取組の推進	様々な学習場面や目的に応じてICTを活用しこどもの主体的な学びを支援する。デジタル教科書等のICTとアナログを組合せた効果的な活用や、デジタルの利点を生かし多様な児童生徒の状況に応じて活用する必要がある。
2 豊かな心	キャリア教育の充実に向けた取組	こどもたちが社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していくために、将来の進路や職業について主体的に考え、社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を育む必要がある。
	読書活動の推進	こどもの豊かな感性を育むため、不読率の低減に向けた読書習慣形成の支援等を通じてこどもの読書活動を推進する必要がある。
3 健やかな体	体力向上（大学と連携した体力向上モデル実施）	こどもの体力・運動能力の向上を図るため、大学の資源（人材・施設・データ等）を活用する必要がある。
	学校給食の提供を通じた健康な体の育成・体力の向上	適正な量や栄養バランスが整った給食の提供を通じて、成長期にある児童生徒の心身の健全な発達の支援をする必要がある。
4 学校マネジメント力	働きやすく「働きがい」のある学校の実現	教員に優れた人材を確保し、教員が専門性を発揮してこどもたちに対してより良い教育を行うため、働きやすく「働きがい」のある職場環境を整備する必要がある。
	教員業務支援員等の効果的な配置	教員が教員にしかできない仕事に集中するため、学校現場で教員をサポートする教員業務支援員等を配置し、活用する必要がある。
	小・小中間の連携による校務の効率化	連携により校務を分担することや、教材を共有することなどを通して、校務を効率化する必要がある。
	時間的・精神的に余裕がうまれる校内体制、マネジメント	教員のウェルビーイングを向上し、教員がこどもと向き合う時間の確保や教員同士が学び合う環境を構築して、こどもの学びの充実を図るため、

		管理職がマネジメントする必要がある。
	不祥事の未然防止対策の徹底（未来をつくる堺の誇り） PRIDE	こどもが安全・安心に学び、育つ場である学校園での不祥事根絶をめざした未然防止対策を徹底する必要がある。
	優秀な教員の確保と教員養成期を含めた人材の育成に向けた大学等との連携	優秀な教員の確保と併せて、教員養成を担う大学等と連携して、人材育成を行う必要がある。
5 誰一人取り残さない教育	不登校等のこどもへのサポート（ICT の効果的な活用）	不登校や病気療養等の事情により登校できないこどもの学習の保障として、ICT を効果的に活用する必要がある。
	特別支援教育の充実（通級指導教室の全校設置、支援学校分校の設置を含む）	個々のこどもの状況に応じた多様な学びの場を提供する必要がある。
7 教育環境の充実	学校規模及び学校配置の適正化	こどもたちによってよりよい教育環境の充実のため、児童生徒数の推移や地域の実情等に応じ、学校規模及び配置の適正化を図る必要がある。
	学校施設・設備の計画的な整備（体育館空調整備、トイレ整備、点検・保守の確実な実施、機能的な改修）	こどもが日々、安全・安心に学べる場として、体育館空調設置の推進など、学校施設・設備を計画的に整備する必要がある。
8 こどもを取り巻く社会的課題への対応	教育の機会均等に向けた経済的負担軽減の取組を推進（就学援助、堺未来応援奨学金など）	経済的な理由によって就学の機会が失われることなく、すべてのこどもたちが安心して学校生活を送ることができるよう教育の機会均等々の確保に向けて取り組む必要がある。
	不登校のこどもへのサポート（教育支援教室、不登校支援ネットワーク）	登校が難しいこどもが過ごせる場として、教育支援教室の充実だけでなく、フリースクール等と連携しながら支援をする必要がある。
	学校外の相談体制の充実（教育相談、区の教育相談、SC、SSW、スクールロイヤー、いじめ不登校対策支援室、支援教育課、いじめネット相談窓口等）	こどもや保護者などの相談者にとって、相談先・相手の選択肢が複数あることは重要であり、相談体制を充実させる必要がある。
9 社会で支えるこどもの育ち	堺版コミュニティ・スクールの推進	学校経営に保護者や地域住民などが参画・連携した学校運営と「社会に開かれた教育課程」の実現を図る必要がある。

	地域学校協働活動（地域コーディネーターの育成を含む）	地域学校協働活動は、「学校を核とした地域づくり」をめざして、学校と地域が連携して子どもたちの学びや成長を支える取組であり、その中核を担うことのできる地域コーディネーターを育成する必要がある。
	家庭教育支援	子どもが家庭の中で基本的な生活習慣、倫理観、情操、社会性などを身につけるため、家庭教育支援の充実を図る必要がある。
	社会教育関係団体（PTA や子ども会など）の諸活動への支援	子どもの健全育成や地域との連携を深めるうえで重要となる社会教育関係団体（PTA や子ども会など）へ支援を引き続き行う必要がある。
	地域産業・社会に貢献する高等学校教育の推進	専門高校ならではの実践的・体験的な学びを通じ、様々なキャリアパスにつなげ、地域の企業・社会に貢献する人材を育成する高等学校教育を推進する必要がある。